

J-45

ミズベリングプロジェクトにおける水辺利用の特徴と事業展開の実態に関する調査研究  
 Research on the contents of activities and the actual condition of business development in the Mizbering Project

○平尾叶<sup>1</sup>, 菅原遼<sup>2</sup>, 畔柳昭雄<sup>2</sup>

Kanae Hirao<sup>1</sup>, \*Ryo Sugahara<sup>2</sup>, Akio Kuroyanagi<sup>2</sup>

**Abstract:** As a result of understanding the contents of waterside use efforts and the actual condition of business development in mizbering organizations nationwide, it was found that the number of groups who are interested in waterside has increased, and the contents and activities of each group are diverse.

1. はじめに

近年、都市における水辺環境への関心の高まりから、水辺の場所性を活かした飲食施設設置やイベント実施等が展開されてきている。こうした中、2014年には、「ミズベリングプロジェクト(国土交通省)」が実施され、水辺の新たな活用方法の模索を意図した多主体の参画による多様な水辺利用の取り組み(以下、ミズベリング事業と示す)が全国的に実施されている。しかし、こうした全国的な水辺利用の動向は必ずしも把握されておらず、地域特有の取り組みの特徴や多主体が連携する上での課題等は整理されていない。

そこで本稿では、全国のミズベリング事業に着目し、取り組み内容を網羅的に把握した上で、各事例の事業実施の動向を整理することで、ミズベリング事業における事業展開の実態を捉えることを目的とする。

2. 調査概要

調査は、WEBを用いた文献調査を実施し、2014年から2018年までにミズベリング事業を実施している団体(以下、ミズベリング団体と示す)を抽出した上で、各団体の取り組み内容や活動場所等を整理した。次いで、各団体の活動資料をWEBより収集した上で、各団体の事業実施の動向を整理し、ミズベリング事業における各団体の事業展開の実態を把握した。

3. 調査結果

3-1. ミズベリング団体数の推移

Fig 1にミズベリング団体数の推移を示す。はじめに、ミズベリング団体の累計団体数に着目すると、2018年現在で73団体確認でき、ミズベリングプロジェクトが発足した2014年以降増加傾向にあることがわかる。次いで、新設団体数に着目すると、2015・2016年は各年20団体以上新設されているが、その後は年々減少し、2018年は4団体にとどまっていた。

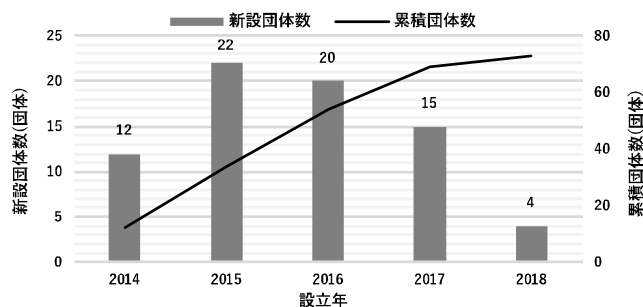


Figure 1. Aging of the number of Mizbering Organizations

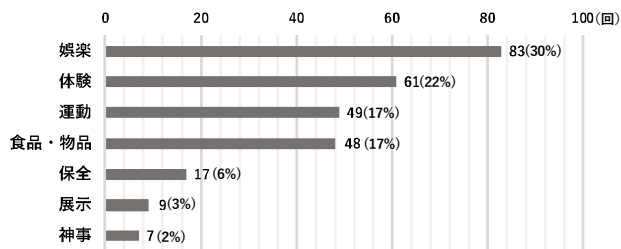


Figure 2. Types of Activities seen

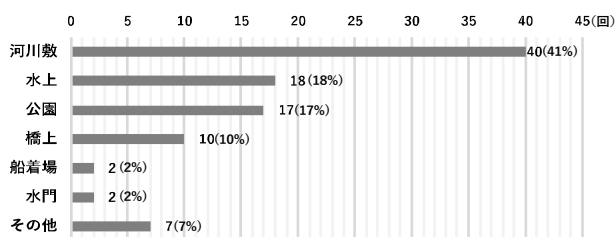


Figure 3. A base of activities

3-2. 活動種別および活動場所

Fig 2に活動種別の割合、Fig 3に活動場所の割合を示す。各団体の活動内容は、2018年度までに274回の活動実施が確認でき、その内訳は、娯楽、体験、運動、食品・物品、保全、展示、神事の7項目に分類でき、水辺で映画鑑賞を行う等の娯楽が83回(30%)と最多であった。活動場所は、河川敷、水上、公園、船着場、水門、その他に分類でき、特に、河川敷が40回(41%)と最多であった。また、その他の項目には、閘門、堤防、ダム、荷上場、干潟、城外、湾処がみられた。

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建

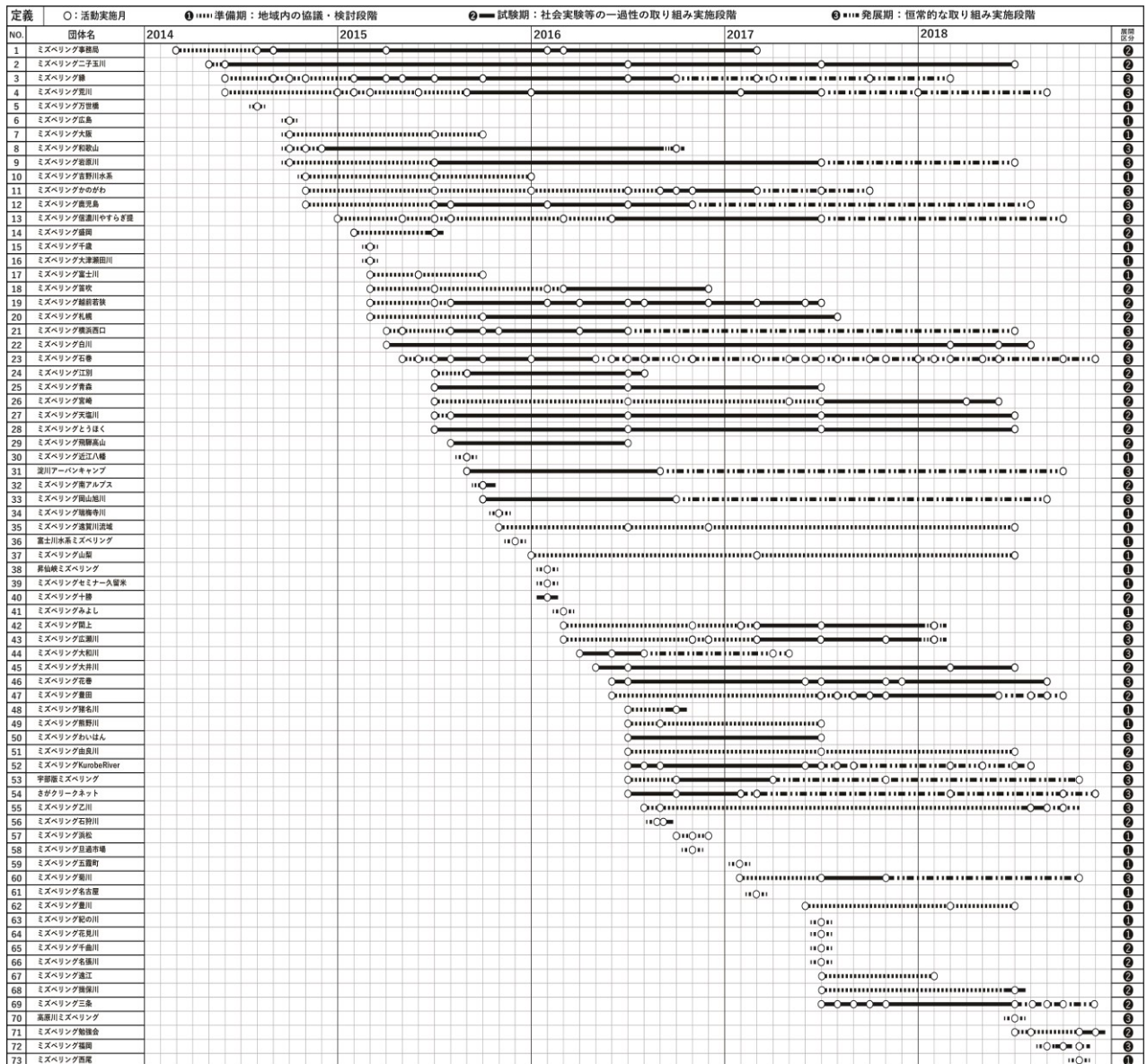


Figure 4. Business development of each organization

### 3-3. 各ミズベリング団体の事業実施の動向

Fig 4 に各ミズベリング団体の事業実施の動向を示す。各団体を「準備期（地域内の協議・検討段階）」、「試験期（社会実験等の一過性の取り組み実施段階）」、「発展期（恒常的な取り組み実施段階）」の3段階に整理した結果、準備期が25団体(34%)、試験期が25団体(34%)、発展期が23団体(32%)確認することができた。特に、発展期の団体は、ミズベリングプロジェクトが発足した当初から活動を実施している団体が多く、民間企業と自治体が連携し地域特有の活動を展開している団体を確認できた。また、準備期および試験期の団体の中には、地域内の活動方針の打ち合わせに終始し、実際的な活動に至っていない団体が50団体(68%)確認でき、必ずしも水辺の利活用にまで発展していない状況も確認することができた。

### 4. おわりに

全国73団体のミズベリング団体の水辺利用の取り組みは「娯楽」に関連した活動が多くみられ、活動場所は「河川敷」が多く利用されていることが分かった。また、事業実施の動向としては、活動内容の段階に応じて「準備期・試験期・発展期」に区分でき、水辺利用が地域に根付きつつある発展期の団体がみられる一方、実際的な取り組みまで発展せず、一過性に終始した取り組み実施もみられた。

### 5. 参考文献

- [1] ミズベリング・プロジェクト事務局：MIZBERING < <http://mizbering.jp/> >
- [2] ミズベリング・プロジェクト事務局，ミズベリング・ビジョンブック，159p，2018.3.